

巨勢歴史マップ

巨勢校区の概要

「巨勢」の地名は、平安時代にできたわが国最初の辞書「和名抄」に記されています。また、「巨勢神社由緒記」によると、巨勢氏という古代の豪族が、吉岐、対馬に来寇した賊を討った後、この地に留まって荒野を開墾したと伝えられており、大化の改新頃、巨勢の地名ができたと考えられます。現在の巨勢町は、佐賀市の東部に位置しています。町の中心を東西に国道264号が走り、西には、かつて水運に利用されていた巨勢川、南には北川副校区との境界となる佐賀江川が流れています。町全体が平坦地で、クリークが縦横に走り、農業用水を確保しています。巨勢町の西部は事業所や店舗、ショッピングセンターが連なる商業地帯、東部は農道が通る田園地帯が広がります。巨勢全体にわたって、神社、仏閣、史跡が点在しています。ぜひ、このマップを見ながら、探訪コースを散策され、歴史を感じただければ幸いです。

令和3年9月30日

監修：金子信二

編集：巨勢まちづくり協議会歴史・文化継承委員会

発行：佐賀市立巨勢公民館



⑥ 巨勢神社

大化元年（645年）の創建で、佐賀市内では大和町の興止日女神社（564年創建）、与賀町の与賀神社（564年創建）に次いで3番目に古い神社です。巨勢大連を祀る神社ですが、巨勢大連は当時、異国から対馬を攻められた時にそれを擊退するために奈良の都から派遣された豪族で、巨勢に陣を構えました。異国を擊退したのちに、この地を開き、現在の水ヶ江から兵庫町、蓮池町辺りまで広がる巨勢郷を築きました。そこで巨勢大連を祀るため住民たちがこの地に神社を創建しました。境内には奈良から取り寄せた椿が植えられています。巨勢神社の紋は佐賀神社と同じ杏葉紋ですが、これは鍋島勝茂が佐賀城の東の守りとして巨勢神社を大切に保護したためといわれています。



⑦ 高尾藤棚跡

⑧ 竈王院

⑨ 高尾お倉跡

⑩ 真崎照郷記念碑

⑪ 肥筑軌道高尾駅跡

藩政時代（江戸時代）、この地に東西2間（3.6m）、南北7間（12.6m）に広がる藤棚があり、よき休憩所となっていました。参勤交代で江戸に出立する時や江戸から佐賀へ帰ってくる時に家族はここで見送りや出迎えをしたといわれています。今の浄土宗になる前は天台宗だったといわれています。天台宗は平安時代にできた仏教宗派であり、この寺の起りは相当に古いものと思われます。



⑪ 肥筑軌道高尾駅跡

巨勢地区には、大正時代末から昭和初期にかけて軌道（輕便鉄道）が、高尾駅を起点として犬尾駅や蓮池駅を経由し、千代田の嶺村までの6.7kmを通りました。大正6年（1917年）、真崎照郷などが発起人となり肥筑軌道株式会社を設立し工事に着手、第一次世界大戦で物価が上がり一時中止ましたが、大正11年（1922年）に再開し翌年に竣工、営業を開始しました。2両編成の車両に蒸気機関車がついていて、ヒヨックという汽笛を鳴らして走っていました。この軌道は福岡県の久留米まで延長される予定でしたが、第一次世界大戦後の不景気で経営困難となり昭和10年（1935年）頃廃止されました。



③ 元忠寺跡と山王社跡

④ 二木大明神

⑤ 構口番所跡

現在は私有地の竹藪ですが、江戸時代初期に天台宗の寺院が建立されました。本尊は不動明王、開基は如願上人です。当時は巨勢第二の寺であり、藩主の信仰も厚く、多くの参詣がありました。元忠寺の隣には山王社が建てられ、民衆の室内安全や五穀豊穣を祈ることになりました。明治の神仓分離により、仁比山の山王社に合祀され、現役社が近くの私有地に移されました。明治時代、元忠寺には一時、御用払い所が置かれ、地方行政の中心になつたこともありました。現在、竹藪の中に住職の墓などが散在しています。



こじんまりコース（2.8km）

巨勢公民館 → ①堂屋敷跡 → ⑦高尾藤棚跡 → ⑧竈王院 → ⑨高尾お倉跡 → ⑩真崎照郷記念碑 → ⑥巨勢神社 → ⑪肥筑軌道高尾駅跡 → ⑫小児天満宮 → 巨勢公民館

しっかりコース（4.5km）

巨勢公民館 → ①堂屋敷跡 → ②六地蔵 → ③元忠寺跡と山王社跡 → ④二木大明神 → ⑤構口番所跡 → ⑥巨勢神社 → 巨勢公民館

⑫ 小児天満宮

天満宮の祠は、鎌倉時代に立川阿波守が鎌倉からこの地に下向の折に建てられたといわれており、以前は、田代二丁目（循誘校区）の田代公園付近にあったものを移されたものです。この祠ははじめ「小兒（おに）天神」と呼ばれていましたが、いかめしく差し障りが多いという事から「小兒（しょうに）天神」と改めたといわれています。この天神は麻疹（はしか）、疱瘡（ほうそう）から守るとされ、病氣流行の時は参詣者が多かったそうです。



ひちくきどうかおえきあと

巨勢地区には、大正時代末から昭和初期にかけて軌道（輕便鉄道）が、高尾駅を起点として犬尾駅や蓮池駅を経由し、千代田の嶺村までの6.7kmを通りました。大正6年（1917年）、真崎照郷などが発起人となり肥筑軌道株式会社を設立し工事に着手、第一次世界大戦で物価が上がり一時中止ましたが、大正11年（1922年）に再開し翌年に竣工、営業を開始しました。2両編成の車両に蒸気機関車がついていて、ヒヨックという汽笛を鳴らして走っていました。この軌道は福岡県の久留米まで延長される予定でしたが、第一次世界大戦後の不景気で経営困難となり昭和10年（1935年）頃廃止されました。

